SDG Impact

UNDP

# SDGインパクト基準と創る未来


ファビエンヌ　ミショー
SDGインパクト　ディレクター
国連開発計画（UNDP）

# 本日の構成

- 2022年の振り返りと学び
- 2023年に注力すること
- 私たちの目指す未来とSDGインパクト基準が貢献できること
- SDGインパクト認証制度の試験運用
  - SDGインパクト認証制度の試験運用の概要と目的
  - 認証ラベル取得のための最低限のエビデンス要件案の概要

# 概括:
# SDGインパクト基準、認証制度、認証ラベルの目的

## SDGインパクト基準:

- 組織が意図したインパクトやSDGsの達成に向けて取り組み、最終的な正のインパクトを最大化するための包括的な内部意思決定の枠組みを提供する
- 組織がサステナビリティとSDGsの総合的かつ体系的な意思決定への組み込みに自信を持てるようにする

## SDGインパクト基準研修:

- SDGインパクト基準　認定講師向け研修　⇒　SDGインパクト基準の公式な認定講師になるための研修を提供し、基準の認知・理解や導入をリードする認定講師の実践コミュニティを構築する
- SDGインパクト　認証提供者向け研修　⇒　SDGインパクト基準に基づく質の高い認証評価を実施するための実践的な認証提供者コミュニティを構築する
- UNDPとDuke大学が共同開発した「Impact Measurement and Management for the SDGs」　⇒　SDGインパクト基準の実施に必要なインパクト測定とマネジメント（IMM）の基礎知識を学べる無料オンラインコース
- SDGインパクト基準　ユーザー向け研修　⇒　基準を導入・実践しようとする企業・事業体を対象とした、UNDPや外部のSDGインパクト基準研修認定講師により提供される実践者のための研修。1日コース（※日本では現在開発中）、3日コースがある。

# 概括:
# SDGインパクト基準、認証制度、認証ラベルの目的

## SDGインパクト認証制度:

- SDGインパクト基準を基本としながらも、最低限の達成基準を目指すべき達成基準より低いレベルに設定することで、制度への参加を促し、時間をかけてSDGインパクト基準に沿ったベスト・プラクティスに向けた、継続的な改善を促す
- インパクトの質を向上させ、民間企業のインパクトウォッシュのリスクに立ち向かう
- SDGインパクト認証制度は、認定/保証サービスの提供に関するISO 17065の要件を満たすことを意図している

## SDGインパクト認証ラベル:

- サステナビリティとインパクトマネジメントに関する社内実践のあり方から、持続可能な事業活動やSDGsへ積極的に貢献していると目される組織を区別するマーケットシグナルを提供する。

# 組織内部のマネジメント・意思決定 VS 外部向けレポーティング

## 組織内部のマネジメント・意思決定重視

- 直接の意思決定者
- 意思決定の有用性
- **前向き**–
  異なる意思決定を行う
- 当事者意識・説明責任
- 形式より実質的な対応
- リスクと機会を重視
- データ収集と測定により、洞察と選択肢を生み出し、より良い意思決定を行う
- イノベーションと問題解決のための柔軟性と横展開可能なアプローチ

## 外部向けレポーティング重視

- 二次的な意思決定者
- 比較可能性を重視
- **後ろ向き** –既に行われたことを別の方法で報告する・必要なスピードで変化を促すには遅すぎる
- コンプライアンス・レポーティング
- 実質より形式的な対応
- 機会よりもリスクを重視
- 報告するために、データを収集し、測定する
- 比較可能性を高めることが優先

# 2022年の振り返りと学び

- SDGインパクト基準の導入をよりわかりやすく、使いやすいものとするため、実践のための12の行動と自己評価ツールを再編
- SDGインパクト基準の認定講師向け研修を7月に日本で開始

⇒　2022年度末までにグローバルでは他に4つの認定講師向け研修の提供が完了し、得られた教訓をリソースに反映中

- 認定講師用の初の継続的専門能力開発セッションの開催

⇒　将来の活気あるグローバルな認定講師の実践コミュニティを支援するため、有効な手段を開発中

- SDGインパクト基準の認定講師による初の企業へのSDGインパクト基準研修の提供を開始

⇒　社会的インパクト・マネジメント・イニシアティブ/ソーシャル・バリュー・ジャパンの認定講師がみずほフィナンシャルグループの社員30名に実施

- グローバルな認定講師コミュニティへさらなる知見を共有するため、SDGインパクト基準　ユーザー向け研修の参加型ワークショップ版のテンプレートをケンブリッジ大学のチームと共同で開発中
- 認証制度とISO17065適合性評価との整合性

# 2023年に注力すること

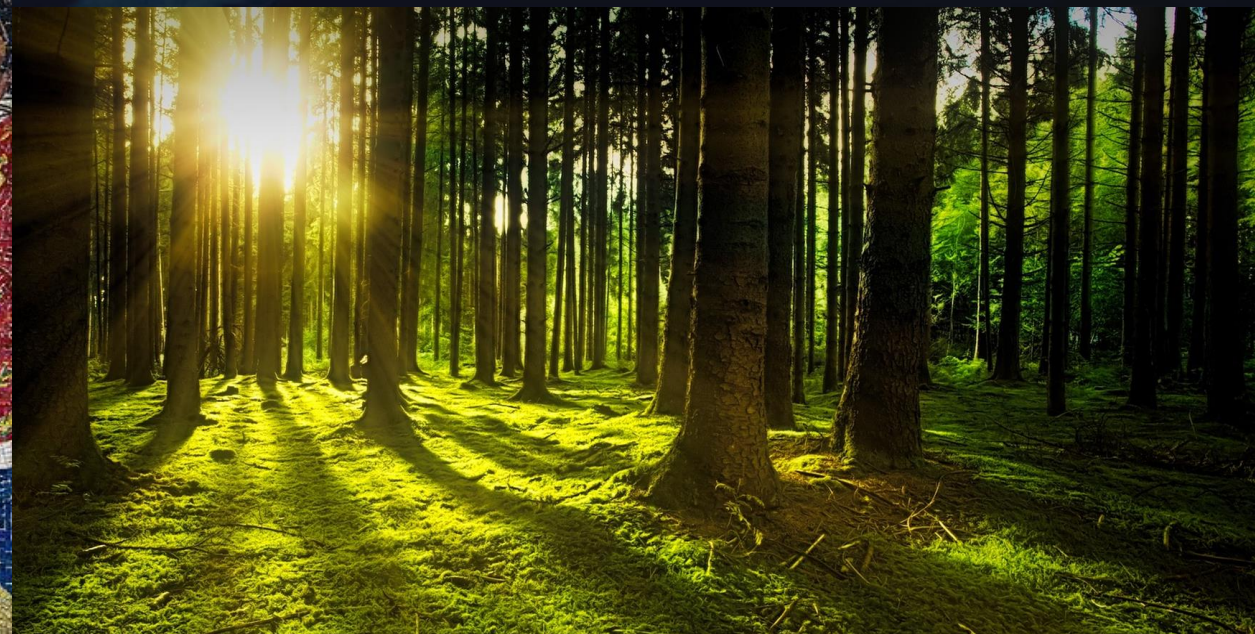
- SDGインパクト認証制度の試験運用
- 正式なSDGインパクト認証制度構築とSDGインパクト認証ラベルの提供開始
- 継続的な専門能力開発セッションや認定講師用の教材・リソース（ケーススタディ、参加型ワークショップの追加等）の拡充を通じて、SDGインパクト基準の認定講師と認証提供者を増やし、活気ある実践のコミュニティを支援する
- SDGインパクト基準と認証制度の認知度と適用事例を増やす

SDG Impact

UNDP

# 私たちの目指す未来とSDGインパクト基準が貢献できること

DO UNTO OTHERS
AS YOU WOULD HAVE THEM
DO UNTO YOU
ATELIER MOVAICO
VENEZIANO 1986

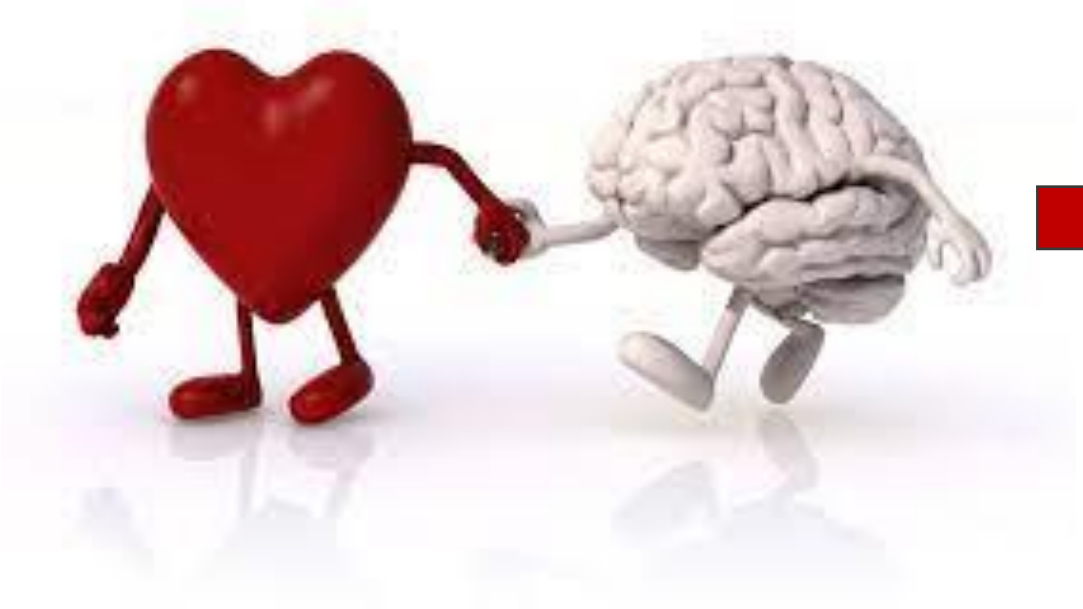


# なぜ自然中心的な考え方、リーダーシップ、マネジメントへの転換が必要なのか

*“人間の健康と自然の健康が相互に関連していることは明らかです。さらに、自然災害、病気、社会の混乱の激しさ、頻度、規模は、世界的に見ても、偶然にしてはあまりに連続的であるように思われます。今こそ、人間中心主義から自然中心主義へと、自然から、自然とともに、自然の中で、さらには自然として生きるという幅広い価値観を統合した、体系的な世界観への転換が必要なのです。”*

出典: Values at the Center V20-2022 Communique / G20 Indonesia Presidency CHAPTER 3: The Value of Interconnectedness: Recovering Together with Nature to Recover Stronger by Bhuvan Ravindran, Research Analyst at Council on Energy, Environment, and Water (CEEW), India

# SDGsを達成し、世界をより持続可能で公正な軌道に乗せるためには、既存の考え方と経営の意思決定の変革が必要



# 新しい常識

**サステナビリティやSDGsへの貢献を事業のパーパスや意思決定の中核に据え、インパクト志向経営を実現する**

- 事業を行うための単なる「付け足し」から、全ての事業活動の運営指針の「中核」へ
- SDGsへの紐づけからSDGsに向けた具体的行動へ
- 報告と順守から意思決定へ
- 測定からインパクト志向経営へ
- オペレーションから戦略へ
- 財務リスク管理から価値創造とイノベーションへ

# インパクト志向経営

## サステナビリティを中核とした事業・投資へのパーパスの転換:

- すべての人にとってより持続可能でインクルーシブな未来に向けて積極的に貢献し、長期的に強靭で好調なビジネスと投資のパフォーマンスを支えることをパーパスの中心に据える
- 企業やポートフォリオの価値は、生態系と社会システムの継続的な存続にますます依存していることを明確に認識する
- サステナビリティを、ビジネスを行う際の付け足しとしてではなく、すべてのビジネスを行う際に考慮すべき要素として使用する

## サステナビリティとSDGsを、**戦略、執行・管理アプローチ、ガバナンス、情報開示**など、**組織内部のマネジメントシステムと意思決定**の中核に据えること

SDG Impact

UNDP

# SDGインパクト
# 認証制度と認証ラベル

# SDGインパクト認証　試験運用の概要と目的

- 概要
  - 最低 8つの認証提供者と4つの企業・事業体の参加 による実施(企業・事業体, PEファンド向け基準)
  - 認証提供者向け研修 ⇒ SDGインパクト基準研修に加え、試験運用を行う認証提供者を認定するための認証提供者向けのモジュールを追加
  - 認証提供者向け研修は2023年2月～3月に実施し、その後すぐに試験運用を開始する予定
  - 試験運用の期間は3～6ヶ月、その後試験運用から得た教訓を反映し、認証制度を正式に立ち上げる予定

- 目的
  - 最低限のエビデンス要件案が適切かをテストする
  - 認証提供機関間の再現性/一貫性をテストする
  - 最低限のエビデンス要件と認証制度を改良するためのインプットを提供してもらう

# SDGインパクト認証ラベル取得のための最低限のエビデンス要件案

- 現在は草案のみ – 試験運用でテストされる予定

- 最低限のエビデンス要件の概要は、「実践のための12の企業行動」それぞれのレベルで提供されるが、実際の最低限のエビデンス要件は、個々の「推奨指標」レベルで設定される（例参照）

- 自己評価ツールは、自社の自主的な基準の導入がどの程度進んでいるかと認証要件がどのようなものかを把握する両方に役立つ

# WARNING

最低限のエビデンス要件、エビデンス、エビデンスのソースは、あくまでまだ案の段階!!

SDGインパクト認証の試験運用の間にテストされ、改良される予定

# 企業・事業体向けSDGインパクト基準
## ― 実践のための12の行動

**1. コミット**
持続可能な形で事業運営し積極的にSDGsに貢献する

**2. 把握**
SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

**3. 統合**
サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

**4. 目標設定**
統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

**5. 調整**
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**6. 整合**
組織の文化、構造、能力をパーパスと戦略に整合させる

**7. 構築**
インパクト測定とマネジメントの　枠組みを構築する

**8. 統合**
経営管理システムや意思決定に、インパクト測定とマネジメントの枠組みを組み込む

**9. 定着**
継続的な改善を定着させる

**10. 開示**
サステナビリティやSDGsをどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する

**11. 統合**
サステナビリティやSDGs、インパクト志向経営をガバナンスの枠組みに組み込む

**12. 徹底**
組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す

戦略

アプローチ（執行・管理）

透明性

ガバナンス

SDG Impact

# 戦略

### 1.コミット
持続可能な形で事業運営し、積極的にSDGsに貢献する

### 2.把握
SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

### 3.統合
サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

### 4.目標設定
統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

### 5.調整
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**
- 責任ある持続可能な事業運営、ならびに SDGs への積極的な貢献が事業のパーパスの中心であると定めているか？（1.1.1）

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**
- 1.1.1 – サステナビリティとSDGsを中心に据え、積極的に貢献する

# 戦略

## 実践のための行動 1: SDGインパクト認証ラベルのための最低限のエビデンス要件　概要

企業価値の向上と持続可能な開発への貢献にいかに取り組むかについて概説した社内文書の存在（以下を含む）:

- 企業の価値創造と持続可能な開発への貢献に関する課題の提示
- これらの課題にどのように取り組むかの説明

# 戦略

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 1.1.1**
組織の長期的なバリュー（価値）創出への取り組みと、持続可能な開発および SDGsに対する 積極的な貢献を連動させている

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • パーパス・ミッションステートメント<br>• インパクト仮説<br>• 戦略／事業計画およびそれを支える文書（例：事業計画、ステークホルダーへの戦略説明会など）<br>• 取締役会戦略会議、取締役、取締役会および関連する小委員会の委員長、CEO/マネージング・ディレクター、上級管理職への聞き取り時に提出された文書、およびその結果を文書化したもの<br>• 経営幹部会議資料および会議議事録 | 情報ソースは以下の通り:<br>• 持続可能な開発の課題に対する認識と、どのようにその課題に取り組むかという組織の戦略が提示されており、それは持続可能な開発に積極的に貢献しようとしないアプローチとどのように異なるかも説明されている | 以下を文書化して認識していることを示す必要がある:<br>a) 長期的な企業価値創造と持続可能な開発への積極的な貢献を結びつけるための課題の提示<br>b) これらの課題にどのように取り組むかの提示<br>c) それは積極的に貢献しようとしないアプローチとどう異なるかの提示 |

# 戦略

### 1.コミット
持続可能な形で事業運営し、積極的にSDGsに貢献する

### 2.把握
SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

### 3.統合
サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

### 4.目標設定
統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

### 5.調整
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**
- バリューチェーン全体の様々なステークホルダーに対する現在および将来の重要なインパクトをどのように特定しているか? (1.1.6)
- 現在及び将来の重要なインパクトを特定し定義するために、グローバル、国内及び地域のSDGsの優先事項やSDGs間のギャップ及び相互依存性を含むサステナビリティの状況に関する情報をどのように利用しているか? (1.1.4, 1.1.2)
- ステークホルダーにとって何が重要かを理解するために、どのようにステークホルダーを特定し、関与しているか? (1.1.5)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**
- 1.1.2 – 相互依存性
- 1.1.4 – 持続可能な開発の文脈の理解
- 1.1.5 – 影響を受けるステークホルダーの特定とステークホルダーの参画/関与の計画
- 1.1.6 – マテリアリティの決定

# 戦略

## 実践のための行動 2: 最低限のエビデンス要件　概要

具体的な課題を認識しているステークホルダーとのエンゲージメントから得られる情報が、重要課題を決定するための基礎となる。その後の優先順位付けは、サステナビリティの優先課題に関する自社の理解によって補完されるとよい。

リスクに関して十分な理解があることは重要。リスクには、ビジネスモデル上のもの、企業価値・持続可能な開発へのアプローチとそれに対応する企業行動、二次データを使用している場合、一部のステークホルダーが関与していない場合、認証される期間内に測るべきインパクト測定が限定的である場合などが含まれる。

# 戦略

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 1.1.6**

持続可能な開発とステークホルダーにとって重要なアウトカムに基づき、持続可能な開発に関 する課題のマテリアリティを決定する取り組みを正式に実践している。そして自社がどの分野で 最大の正または負のインパクトを与える可能性があるか（または与えているか）を判断している。

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • マテリアリティ方針（実際のマテリアリティインパクト／ベースライン推計の方法）と分析<br>• マテリアリティ報告書（最新版）<br>• マテリアリティ・プロセスおよび分析結果を承認する取締役会文書 | 情報ソースは以下の通り:<br>• ステークホルダーの関与から課題を決定するアプローチの提示<br>• 戦略およびビジネスモデルに、組織が最も大きなインパクトを与えられる領域が、反映されていること<br>• 組織が重大なインパクトを与えることができない場合、ステークホルダーにとって重要なアウトカムを除外する決定を裏付けるエビデンスの提示 | 予想される重要なインパクトは、測定するものを選択する際に特定しなければならない:<br>a) ステークホルダー（すなわち、インパクトを経験する人）の優先順位に基づいていること<br>b) 負のインパクトを含む持続可能な開発の状況の反映<br><br>予想される重要なインパクトの中で測定されていないものについては、以下を実施しなければならない:<br>a) 測定する期間を設定した、関連する意欲的な計画の策定 |

# 戦略

### 1.コミット

持続可能な形で事業運営し、積極的にSDGsに貢献する

### 2.把握

SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

### 3.統合

サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

### 4.目標設定

統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

### 5.調整

最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- インパクトの意図をどのように明確にし、それを組織のパーパスと事業戦略にどのように反映させてきたか? (1.1.1)
- 人権、プラネタリーバウンダリー、およびその他の責任あるビジネス慣行を尊重し、組織のパーパスと戦略にどのように組み込んできたか? (1.1.3)
- ビジネスモデルやパートナーシップに調整が必要かどうか、どのように判断しているか? (1.1.7)
- インパクトが予想通りに発生しないリスク(ステークホルダーに対するものも含む)を、どのように評価しているか? (1.1.8, 1.1.9)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 1.1.1 – サステナビリティとSDGsを中心に据え、積極的に貢献する
- 1.1.3 – ビジネスと人権、透明性と汚職、責任ある納税と責任あるロビー活動、およびプラネタリーバウンダリー内での事業活動
- 1.1.7 – ビジネスモデル、パートナーシップ、協働
- 1.1.8 – サステナビリティのリスクと機会の組み入れ
- 1.1.9 – シナリオ分析と感応度分析

# 戦略

## 実践のための行動 3: 最低限のエビデンス要件　概要

実践のための行動1および2の要素が、次のレベルの方針およびプロセスに組み込まれていることを示すエビデンスの提示。

ステークホルダー関連のリスクがリスク管理表に含まれ、責任者が特定され、シナリオプランニングによって対処方法が明示されていること。

# 戦略

### 1.コミット
持続可能な形で事業運営し、積極的にSDGsに貢献する

### 2.把握
SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

### 3.統合
サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

### 4.目標設定
統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

### 5.調整
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**
- 特定された重要なインパクトに基づくインパクト目標を定義し、すべてのインパクト目標について測定可能で意欲的な目標を設定しているか? (1.2.1, 1.2.2, 1.2.3, 1.2.4, 1.2.5, 1.2.6)
- これらのインパクト目標やターゲットは、事業計画に統合されているか？インパクト目標の達成のために十分なリソースが配分されているか? (1.1.10)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**
- 1.2.1 – インパクト目標、パーパス、戦略、ステークホルダーの期待、およびサステナビリティの文脈を一致させること
- 1.2.2, 1.2.3, 1.2.4, 1.2.5 – 意欲的な目標、最低限の達成基準、インパクト目標の十分な絞り込み、すべての重大な負のインパクトを回避または大幅に削減するインパクト目標の設定、マーケットリーダーおよび共同目標の設定によるインパクトの増幅、分野横断的な目標、インパクトの5つの基本要素に基づいたインパクト目標の設定
- 1.1.10 –適切なリソースの確保

# 戦略

## 実践のための行動 4: 最低限のエビデンス要件　概要

目標、戦略、重要なインパクト、ステークホルダーの期待を考慮した実践のための予算が、「実践のための12の行動のマネジメント」において確保されており、またこれらがジェンダー平等と整合していること。

重要なインパクトが特定され、SDGsと関連づけられ、ステークホルダーの巻き込みの結果と一致し、インパクト仮説に含まれていること。

目標が最低限の達成基準を超え、意欲的であるとして支持され、気候変動、ジェンダー、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセントワーク）、負のインパクト、最低一つの他のステークホルダーの優先事項をカバーし、測定計画が行動7と一致していること。

# 戦略

### 1.コミット
持続可能な形で事業運営し、積極的にSDGsに貢献する

### 2.把握
SDGsの達成に向けて何が重要か、また現在・未来においてどの領域で重要なインパクトを生み出せるかを把握する

### 3.統合
サステナビリティとSDGsを組織のパーパスと戦略に組み込む

### 4.目標設定
統合させたパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する

### 5.調整
最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**
- 内外の状況の変化や実際のインパクトに関する情報が明らかになるにつれ、どのように戦略やインパクト目標を見直し、調整しているのか? (1.1.11)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**
- 1.1.11 – 戦略の常時実施と継続的改善の定着

# 戦略

## 実践のための行動 5: 最低限のエビデンス要件　概要

社内の変化や持続可能な開発状況の変化が、パーパス、戦略、インパクト目標に与える影響を毎年検証していることを示すエビデンスの提示

# アプローチ（執行・管理）

**6.整合**

組織の文化、構造、能力をパーパスと戦略に整合させる

**7.構築**

インパクト測定とマネジメントの枠組みを構築する

**8.統合**

経営管理システムや意思決定にインパクト測定とマネジメントの枠組みを組み込む

**9.定着**

継続的な改善を定着させる

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- 人権、プラネタリー・バウンダリー、その他の責任あるビジネス慣行を尊重する姿勢を、どのように組織の方針や手順に組み入れているか? (2.1.1, 2.1.2)
- 意思決定へのステークホルダーの関与、政府機関との連携、共通の解決策に向けた同業他社やパートナーになりうる組織との協働をどのようにしているか? (2.1.3, 2.1.4)
- どのように組織内部の能力開発を進め、説明責任を組み入れ、インセンティブをパーパスと戦略に合致させているか? (2.1.5)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 2.1.1 – 人権、プラネタリーバウンダリーの尊重、およびその他の責任あるビジネス慣行と効果的な苦情処理メカニズム
- 2.1.3 – ステークホルダーの巻き込み／関与、およびステークホルダーの巻き込みの性質
- 2.1.4 – 持続可能な開発目標（SDGs）
- 2.1.5 – 組織文化、多様性、およびインパクトマネジメント能力

# アプローチ（執行・管理）

## 実践のための行動 6: 最低限のエビデンス要件　概要

国内および国際的な関連法規への（ある程度の変動幅を念頭に）準拠が確保されていること。ステークホルダー関与方針が公開されており、それにはジェンダー、労働者団体、地域社会の観点が含まれ、予算が配分されていること。

その結果は、インパクト仮説との違い、ステークホルダーの意思決定への影響の例を含めて文書化・伝達されていること。加えて、ジェンダーや無意識の偏見を是正する研修や、差別その他の負のリスクの考慮・削減が行われているエビデンスがあること。

現時点および今後のパートナーシップや協働へのコミットメントが、活動のエビデンスとなる予算配分によって認識されていること。

チームの個人的な目標がインパクトの目標とリンクしており、職務記述書に記載され、評価や雇用条件が公平に定められていること。

苦情処理手続きが整備され、見直され、更新され、利用しやすく、救済措置がとられ、関連する国連の枠組みと整合していることを示すエビデンスがあること。

持続可能な開発の状況や予想される重要なインパクトを含め、方針が定期的に見直されており、組織が方針に沿った行動をとっていることを示すエビデンスがあること。

# アプローチ（執行・管理）

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 2.1.3**

影響を受けるステークホルダーに対し、影響が及ぶ課題に関与させるべく、取り組みを公式に実施している。具体的には、(i)適正な予算と経営資源の配分によるステークホルダーの関与の促進（研修機会の提供や地域のリーダーの巻き込み等）、(ii)影響を及ぼす可能性がある意思決定のプロセスにステークホルダーを参画させる機会の特定、(iii)ステークホルダーへの組織の取り組み、進捗状況、教訓について透明性のある報告の実施。

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • ステークホルダー関与方針<br>• 年間予算<br>• 取締役会および経営陣への聞き取り<br>• ステークホルダー関与の結果<br>• ステークホルダー参画担当部署からの報告書<br>• 調査、調停、是正のための資格を有する人材 | 情報ソースは以下の通り:<br>• 方針に沿った、推奨指標1.1.5と整合性のある巻き込み<br>• 関与の成果<br>• 変化につながる関与の例<br>• 方針・効果の見直し、予算の変更<br>• 成果および行動を含むフィードバック | ステークホルダー関与方針が公開されており、ジェンダー、労働者団体、地域社会の観点が含まれていること。<br>ステークホルダーの関与にかかる費用について、明確な予算が設定されていること。支出不足の理由は、予算報告の一部となっていること。<br>ステークホルダー関与の結果、変化があったか否かに関わらず、理由を添えてステークホルダーにその結果を伝えること。<br>関与の結果が現在のインパクト仮説と一致しない場合:<br>a) 推奨指標2.3.5を満たすために必要な振り返りにそのギャップを含める<br>b) 少なくとも、いくつかの結果はインパクト仮説に変更を加える必要がある |

# アプローチ（執行・管理）

**6.整合**

組織の文化、構造、能力をパーパスと戦略に整合させる

**7.構築**

インパクト測定とマネジメントの枠組みを構築する

**8.統合**

経営管理システムや意思決定にインパクト測定とマネジメントの枠組みを組み込む

**9.定着**

継続的な改善を定着させる

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- 強固なインパクト測定とマネジメント（IMM）の枠組みがあるか？意思決定に役立つ測定基準を特定し、インパクトデータを適切に収集、検証、管理、使用するために、どのような方法論、プロセス、システムを開発しているか? (2.1.6, 2.3.2)
- どのようなインパクトを評価、モニタリング、マネジメントするための方法論、プロセス、システムを開発しているのか? (2.2.1, 2.2.2, 2.2.3, 2.3.1, 2.3.3, 2.3.4)
- 意思決定に必要な情報量をどのように決定するのか? (2.2.4)
- インパクトリスクを管理するために、第三者によるインパクト評価が必要な時期をどのように決定するのか? (2.2.6)
- インパクト情報がビジネスの意思決定、進行中のインパクトマネジメント業務および継続的な改善につながるように、どのように結果と学んだ知見を把握するのか? (2.2.7, 2.3.5)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 2.1.6, 2.1.7, 2.2.1, 2.2.4, 2.2.7, 2.3.5 – インパクトデータの収集および使用、マネジメント慣行、測定慣行、ならびに最低限必要なデータ要件
- 2.1.6 – データ収集の際の人権に配慮したアプローチ、データの所有権、細分化されたデータ、データの質、およびデータ検証のためのリスクに配慮したアプローチ
- 2.2.1 – インパクトを評価する一貫した尺度としてのウェルビーイング、文脈に応じた意思決定、および「誰ひとり取り残さない」という基本理念の使用
- 2.2.3 – リスク管理
- 2.2.4 – 測定基準（指標・メトリクス）の選択
- 2.2.6 – 包括的で独立したインパクト評価
- 2.3.1, 2.3.2 – モニタリング
- 2.3.2 – リスク管理ーデータギャップ

# アプローチ（執行・管理）

## 実践のための行動 7: 最低限のエビデンス要件　概要

インパクトデータの収集が、インパクトの改善/網羅性の計画に裏付けられた、重要かつ優先順位の高いインパクトの理解と一致していること。そして、それらのインパクトデータの収集が、データポイントの改善/網羅性の計画によって裏付けられた、最低限の達成基準を満たしていることを示すエビデンスの提示。

不完全で正確性に欠ける情報のリスクが認識され、パフォーマンスの低下や最適でない意思決定が行われているエビデンスの提示。

# アプローチ（執行・管理）

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 2.3.2**
可能であれば、代替指標をアウトカム指標に置き換え、予想の正当性を検証し、また必要に応 じて予想をアップデートしてデータギャップを補っている。

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • インパクトレポートとインパクト仮説の経年比較<br>• インパクト測定・マネジメント（IMM）マニュアル | 以下の情報源は、意思決定のために適切であることを強調する:<br>• アウトプットの二次データソースから、アウトカム、重要なアウトカムへのシフト<br>• 従業員や地域社会へのインパクトから、サプライチェーンや顧客へのインパクトまで含むものへのシフト<br>• アウトプットからアウトカム、そしてウェルビーイングのアウトカムへのシフト<br>• より厳密でない因果関係からより厳密な因果関係へのシフト<br>• 二次資料に基づく透明性のない評価から、ステークホルダーの選好に関する一次調査へのシフト<br>• 決まった期間の二次調査から過去のパフォーマンスへのシフト<br>そして、(i) 意思決定のためのインプットとしてのデータの網羅性、正確性、適時性を継続的に改善し、(ii) 状況の変化に応じて推測を見直すことを網羅している | 以下の点を網羅した文書が利用可能でなければならない:<br>a) 意思決定の量と質の両方に対するギャップのリスクの認識<br>b) サステナビリティとSDGsへの積極的な貢献があるかどうかを判断するための材料<br>c) サステナビリティの状況についてのアニュアルレビューからの示唆<br>データの継続的な改善のための意欲的な計画があること:<br>a) 意思決定のためのインプットとしての網羅性、正確性、適時性を含んでいること<br>b) 推奨指標2.1.6及び2.2.3の最低要求事項に従ったアプローチを開発していること<br>優先する重要なインパクトに含まれない場合、その不均衡は次年度の計画の一部とすること。<br>(意欲度の裏付けとなるプロセスに関するエビデンスは求められないことに留意する) |

# アプローチ（執行・管理）

**6.整合**
組織の文化、構造、能力をパーパスと戦略に整合させる

**7.構築**
インパクト測定とマネジメントの枠組みを構築する

**8.統合**
経営管理システムや意思決定にインパクト測定とマネジメントの枠組みを組み込む

**9.定着**
継続的な改善を定着させる

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- 意思決定のためにインパクトデータをどのように利用しているか？どのように7で構築した手法に基づき、重要なインパクトを評価、比較しているか? (2.1.6, 2.2.1, 2.2.2, 2.2.3, 2.2.4, 2.2.6)
- どのようにインパクトと SDGsへの積極的な貢献を最適化するための選択肢を生み出し、その中から選択しているか? (2.2.5)
- どのように予想されるインパクトと、ベースライン、反事実、最低限の達成基準に対する実際のインパクト・ パフォーマンスをモニタリングし、インパクトと SDGsへの貢献を最適化するために行動しているか? (2.3.1, 2.3.2, 2.3.4)
- どのように予想されるアウトカムからの乖離を分析し、対処しているか? (2.3.3)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 2.1.6, 2.1.7, 2.2.1, 2.2.4, 2.2.7, 2.3.5 – インパクトデータの収集および使用、マネジメント慣行、測定慣行、ならびに最低限必要なデータ要件
- 2.1.6 – データ収集の際の人権に配慮したアプローチ、データの所有権、細分化されたデータ、データの質、およびデータ検証のためのリスクに配慮したアプローチ
- 2.2.1 – インパクトを評価する一貫した尺度としてのウェルビーイング、文脈に応じた意思決定、および「誰ひとり取り残さない」という基本理念の使用
- 2.2.3 – リスク管理
- 2.2.4 – 測定基準（指標・メトリクス）の選択
- 2.2.6 – 包括的で独立したインパクト評価
- 2.2.5 – 選択、選択肢、トレードオフ
- 2.3.1, 2.3.2 – モニタリング
- 2.3.2 – リスク管理 – データギャップ

# アプローチ（執行・管理）

## 実践のための行動 8: 最低限のエビデンス要件　概要

最適でない決定が下されるリスクを理解し、リスク選好度やインパクトを受ける人々の許容範囲、選択肢や決定におけるトレードオフの定量的理解、比較から生じる改善のための計画によって支えられ、貢献を最適化するための意思決定が体系的に行われているエビデンスの提示。

# アプローチ（執行・管理）

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 2.2.5**

組織は（相対的にも絶対的にも）製品、サービス、事業運営を透明性のある方法で選択し、持続可能な開発とSDGsに対する貢献を最も適切な形で行い、予想通りにインパクトが生じないリ スク（ステークホルダーへのリスクを含む）、および異なるアウトカム間やステークホルダーなら びにその下位グループ間のトレードオフが存在することを考慮している。

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • 推奨指標2.1.6.4 およびトレードオフを扱うための文書化されたアプローチ | 情報ソースは以下の通り:<br>• 文書化されている意思決定の基礎となる組織的選好のリスクを理解した上で、トレードオフの基礎としてステークホルダーの情報に基づく選好にアプローチする、あるいは組織の選好からステークホルダーの選好にシフトする | 取締役会及び上級管理職は、聞き取りの際に問題を認識していなければならない。<br>トレードオフのための文書化されたアプローチにより、選択肢内及び選択肢間の正と負のトレードオフを通知すること。<br>トレードオフを定量化するための共通の単位が定義されていること。<br>意思決定に使用される情報におけるトレードオフの考え方が、文書化されたアプローチと整合していること。 |

# アプローチ（執行・管理）

**6.整合**

組織の文化、構造、能力をパーパスと戦略に整合させる

**7.構築**

インパクト測定とマネジメントの枠組みを構築する

**8.統合**

経営管理システムや意思決定にインパクト測定とマネジメントの枠組みを組み込む

**9.定着**

継続的な改善を定着させる

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- どのようにインパクトの結果、知見、持続可能な開発状況の変化を念頭に置き、長期的にインパクトマネジメントの実践を精緻化しているか? (2.1.7, 2.2.7, 2.3.5)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- なし

# アプローチ（執行・管理）

## 実践のための行動 9: 最低限のエビデンス要件　概要

ベストプラクティスと一致するデータ収集で、特に重要なインパクトのマネジメントに関連する特定の指標に対して、予定表とともに改善計画があること。

意思決定のための体系的な情報収集の必要性が強化されていること。

計画が見直され、更新され、経営陣が計画に対する進捗を承認していること。

# 透明性

## 10.開示

サステナビリティやSDGsをどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- サステナビリティとSDGsへの積極的貢献が、どのように意思決定に組み込まれ、ステークホルダーのニーズや関連法規に従っているかをどのように開示・報告しているか? (3.1, 3.3, 3.5)
- どのようにインパクト・パフォーマンスを 一貫した方法で状況に応じて発信しているか? (3.2)
- 人権や、責任あるビジネス慣行に関する方針をどのように開示しているか? (3.4)
- インパクトおよびサステナビリティに関する報告書を有し、保証を受けているか？またその場合、どのように推奨項目を実行しているか? (3.6)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 3.1 – 外部向けレポーティング
- 3.2 – ABCインパクト分類を、集約されたインパクトではなく、個々のインパクトへ適用すること
- 3.3 – ステークホルダーのニーズを反映した報告
- 3.4 – 公共政策と情報開示
- 3.6 – 外部機関の独立した認証

# 透明性

## 実践のための行動 10: 最低限のエビデンス要件　概要

報告が、SDGsに関連し、人権を含む目標に対するパフォーマンスの評価が含まれ、評価はトレードオフを含む意思決定と決定に関する情報、システムおよびアプローチにおけるギャップの特定とギャップへの対処計画によって行われていること。

これには、ステークホルダーの特定、ジェンダーレンズの活用、重要なインパクトなどが含まれる。

エビデンスには、期間中のニュースやソーシャルメディアのレビュー結果による報告の一貫性と完全性が含まれる。

# 透明性

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 3.1**
持続可能性とSDGsへの積極的な貢献を組織の意思決定にどのように組み込んでいるかを開 示し、「SDGs情報開示勧告」に従いそのパフォーマンスを（少なくとも年一回）報告する。

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • 少なくとも年1回作成されているサステナビリティ／インパクトレポート<br>• ウェブサイト（持続可能な経営とSDGsへの積極的な貢献へのコミットメント、倫理、人権およびその他の責任あるビジネス慣行に関する方針、利用可能なステークホルダーの苦情および賠償メカニズム、パーパス・ミッションステイトメント、インパクト仮説、ステークホルダー参画計画に関する情報開示）<br>• 認証報告書、所見および講じた措置の文書化されたエビデンス<br>• 内部監査報告書<br>• ステークホルダー向けプレゼンテーション資料<br>• メディア向け報告書 | 外部向けレポーティングには、積極的に貢献し、意欲的な目標を持つ上での問題点や課題を認識することが含まれる | 報告書は以下の要素が必要:<br>a) 予想されるすべての重要なインパクトに関する改善計画とデータギャップへの対処を含むこと<br>b) 人権および関連指標に関連するパフォーマンスについて言及すること<br>c) 推奨指標2.2.3と整合するように、意思決定において代理指標や不完全な指標を使用するリスクを網羅すること |

# ガバナンス

**11. 統合**
サステナビリティやSDGs、インパクト志向経営をガバナンスの枠組みに組み込む

**12. 徹底**
組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- 組織のガバナンス機構は、サステナビリティと SDGs への積極的な貢献が、企業のパーパス、戦略、リスクマネジメント、意思決定の実践、責任あるビジネスおよびインパクトマネジメントの実践やパフォーマンスに組み込まれているかをどのように監督しているか? (4.1)
- 企業の親会社および持ち株会社あるいはそのいずれかは、本基準が示す要件に則り、ガバナンスと責任あるビジネス慣行に関する方針、実践、パフォーマンスを保持しているか? (4.3)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 4.1 取締役会のリーダーシップと監督

# ガバナンス

## 実践のための行動 11: 最低限のエビデンス要件　概要

定期的に開催される社外取締役を含む組織のガバナンス機構のガバナンスへの関与のエビデンス、および苦情、行動、ジェンダー、リスク監督などの関連指標に関連する決定を含む決定のエビデンスの提示。

法的構造、効果的なコントロールの問題、SDGインパクト基準とその要件を認識している持株会社からの声明（該当する場合）を理解していること。

# ガバナンス

**11. 統合**
サステナビリティやSDGs、インパクト志向経営をガバナンスの枠組みに組み込む

**12. 徹底**
組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す

**関連するSDGインパクト基準　推奨指標:**

- 組織のガバナンス機構は、持続可能な開発にふさわしい能力を有する多様な人材で構成されており、透明性のある事業運営を行い、影響を受けるステークホルダーに代わって行動することの重要性をどのように認識しているか? (4.2)
- 組織のガバナンス機構は、責任あるビジネスとインパクトマネジメントの実践（組織のバリュー、パーパス、方針に沿う）およびパフォーマンスに関する責任を、経営陣に対しどのように負わせているか? (4.2)

**関連するSDGインパクト基準　ガイダンスノート:**

- 4.2 – 取締役会の能力

# ガバナンス

## 実践のための行動 12: 最低限のエビデンス要件　概要

他の指標におけるガバナンス機構の役割に関連する問題のまとめ。

ただし、汚職防止、検証のエビデンス、インパクト目標に対するパフォーマンスとその結果（目標設定への関与を含む）を対象とする。

これを担当する役員の職務権限には、事業のインパクトを受けている人々の利益のために行動する役割、ジェンダーに関する措置、SDGインパクト基準の研修を受ける取締役の選定が含まれている。

# ガバナンス

## 例:

**SDGインパクト基準　推奨指標 4.2.5**
事業運営が持続可能であること、持続可能な開発とSDGsに対する積極的な貢献（責 任あるビジネスやインパクトマネジメントに関する方針や慣行に即した事業運営など）に関して、CEOやマネージング・ディレクターが責任を負っている

| 認証のためのエビデンス資料となりうるもの | 認証のためのエビデンス | SDGインパクト認証ラベルの最低限のエビデンス要件案 |
|---|---|---|
| • アニュアルレビュー<br>• 取締役会資料 | パフォーマンス評価には、サステナビリティとSDGsに積極的に貢献するパフォーマンスも含まれる | 評価には以下を含むものとする:<br>a) 関連するインパクト目標に対するパフォーマンス<br>b) 不履行の結果についての検討 |

# ご清聴ありがとう
# ございました!

※本日説明した認証制度の予定は、今年グローバルで実施される予定のものであり、日本での認証制度の提供開始には（日本語での認証提供の可否を含め）もう少し時間を要しますので、今後の認証制度の展開はUNDP駐日代表事務所のウェブサイトをご確認下さい。

SDGインパクト特設サイト: https://sdgimpact-jp.org/

UNDP駐日代表事務所　SDGインパクトサイト:
https://www.undp.org/ja/japan/sdg-impact

SDG Impact